

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年は、すべての領域において目標値を上回った。「やりとり」を意識したペア練習時にALTが入ることによって、より実践的に自由に会話をしている成果が少しずつ出てきているのではないかと考えている。
- ・第2学年は、昨年度に引き続いて既習事項を生かして、自分の考えを発信することを意識して指導したため、「伝えたいこと」と「使用する文法」を考えて表現できている。また、やり取りの活動においてALTを活用し、自分の話している英語が伝わる楽しさを体験することで、苦手意識をもつことなくやりとりする姿勢が見られる。
- ・第3学年は、「やりとり」を意識したペア練習を今年度も継続し、英語でのコミュニケーション活動に抵抗なく取り組めることができる。都のスピーキングテストに向けて対策を立て、「自分の考えや思いを既習の英語で表す」という思考力・判断力・表現力を向上させる活動を2学期以降も展開し、英語でのコミュニケーション活動に抵抗なく取り組める生徒の育成を目指していく。

(2) 課題

- ・第1学年は、話す・聞くことに抵抗はないが、「書くこと」に関しては、今回の結果の無回答率が少し高めであったため、今後は授業の中で「書く」場面を増やす必要がある。
- ・第2学年は、発話では正しい文法で話せているが、書くことになるとつづりの間違いや、細かな文法のミスが見られる。帯活動で「Quizlet」を活用し、単語の定着を図っているが、書く習慣が少ないので、正しいつづりを身に付けるまで時間がかかると見られる。そのため2学期以降、書く活動を増やして、つづりのミスを減らす必要があると考える。
- ・第3学年は、「聞くこと」はできているが、その答えを正確な英語で書くことに課題がある。自由に自分の考えを書くことへの抵抗感は低いが、相手の発問に対して正しい答えを書く練習が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	すべての領域で目標値を上回った。今後は「書くこと」を中心に一層の向上を目指させる。		
第2学年	すべての領域で目標値を上回った。今後は「書くこと」を中心に、区平均を	すべての領域で目標値を上回った。今後は「書くこと」を中心に能力の向	

	上回ることを目指させる。	上を目指させる。	
第3学年	すべての領域で目標値を上回った。区平均値に届かなかった「書くこと」に指導の重点を置き能力向上を目指す。	目標値を上回ったがすべての観点、領域においてさらなる向上を目指す。	目標値を上回った。

(2) 分析 (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回っているが、問題全体の中では「書くこと」の正答率が低い。文法や語彙の定着を図る必要がある。	目標値を上回っているが、英作文の無回答率が他に比べ、あったのが気になる。練習を重ね、書くことへの苦手意識をなくしていく。	目標値を上回っているがさらに主体的に学習に取り組めるように、授業時の振り返りシート等で具体的なアドバイスをする必要がある。
第2学年	目標値を上回っているが、「書くこと」の正答率が低いので、語形変化を中心に、語彙の定着を図る必要がある。	目標値を上回っているが、書くことの領域について課題が見られる。語彙の定着と、活用を意識した活動を取り入れていく。	目標値を上回っているがさらに主体的に学習に取り組めるように、学習方法を含め指導を継続する必要がある。
第3学年	目標値を上回っているが、場面に応じた英作文の正答率が低い。既習事項を使いこなせるように書く課題を多く出し、練習を重ねていく。	リスニングの正答率は全体では目標値を上回っているが、英文で解答する問題が目標値に届いていない。自分で選ぶテーマに沿っては書くことができるので、条件に合う文を書く練習が必要である。	目標値を上回っているが、さらに主体的に学習に取り組むように、出来ないことや課題と考えている内容への解決方法をアドバイスし、自分で向上できる自立した学習者を育成していく。

3 授業改善のポイント (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	文法の定着を図るために、「使って覚える」授業展開を目指す。タブレットを使ったアプリの活用や年度当初から実施している単語テストを継続し、語彙力の定着を目指す。	英文を書く活動を授業でも積極的に行い、まとまった文を書くことができるようにする。英問英答の活動を開始し、自分の考えなども表現できるように練習を重ねていく。	家庭学習を充実させるよう働きかけ、「ドリルパーク」などの教材を活用して自学できる学習者の育成に努める。また、協働学習を通じて、教え合い、学び合う環境づくりに取り組む。
第2学年	正しい語彙の定着のため	正しい英語を身に付ける	自分で必要だと思ったこ

	に、Quizlet だけでなく、Kahoot でつづりを問う質問を出すなど、つづりにこだわった活動を増やしていく。	ために ALT をさらに活用し、習った表現を実際に使う場面を多く設定し、状況から使用する言語材料を判断する力を身に付けさせる。	とをまとめる「ライティングノート」を活用し、主体的に自己調整できる活動を取り入れていく。
第3学年	基礎基本を定着させるために、授業における新出文法事項の導入時に、既習事項の復習も盛り込み、丁寧に行う必要がある。 条件にあった正しい英文を書く演習問題を多く取り入れる。 まなびポケットのドリルパークを活用する。	リスニング演習やまとまった文を読み内容をとらえる練習を継続する。英問英答の口頭練習も、決まった答えだけではなく、自分の考えを足して答えるように練習していく。 自分の考えを応答や、まとまった文で伝える活動を継続していく。	自分で考えて必要な家庭学習を自分のペースでできるような課題を出し、自分調整していく力を身につけさせる。